

第 1 回 瑞穂市地域福祉計画策定委員会 会議要旨会議録

会議名	第 1 回 瑞穂市地域福祉計画策定委員会 会議要旨
開催日時	令和元年 12 月 9 日（月） 午後 1 時 0 0 分～ 3 時 1 5 分
会場	瑞穂市総合センター2 階 交流ルーム
出席者	委員：14 名（欠席者：1 名 国枝委員） 事務局：健康福祉部長、地域福祉高齢課長、課長補佐、社会福祉協議会職員、委託業者
次第	<ul style="list-style-type: none"> ・開 会 ・委嘱書交付 ・市長挨拶 ・委員自己紹介 ・会長・副会長挨拶 ・協議事項 ① 地域福祉計画策定の概要等について ② 瑞穂市地域福祉計画アンケートについて ・その他 ① 地域福祉活動計画について ② 事務連絡
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 瑞穂市地域福祉計画策定委員会次第 ・資料 2 瑞穂市地域福祉計画策定委員名簿 ・資料 3 第 1 回瑞穂市地域福祉計画策定委員会資料 ・資料 4 瑞穂市地域福祉計画アンケート調査票案 ・資料 5 瑞穂市地域福祉計画書

決定事項 議事録

- ・会長に豊田（美）委員、副会長に畦地委員選出。
- ・委員会全公開、当日傍聴希望者なし、会議録について要点筆記、発言委員の記載、議事録は会長副会長に確認後 HP など公開することを委員全員の挙手により承認。

協議事項 議事録

協議事項 ①地域福祉計画策定の概要について

事務局説明 【資料3】に基づき、説明

- ・少子高齢課・核家族化、高齢者世帯増加、小世帯化を要因とするコミュニティ意識の希薄化、担い手不足など地域を支えあう力の弱体化が問題となっている。
- ・社会背景の変化や生活様式の多様化により虐待、孤独死、いじめ・ひきこもりなど様々な問題が出てきている。
- ・社会福祉法の改正により全自治体が努力義務となる。令和4年度末までだったが社会情勢を見据え現計画終了を待たずして計画検討・策定を行い問題に対応する。

委託業者説明

- ・平成30年の社会福祉法改正により地域福祉計画が福祉分野上位計画と位置付けられる。支え手・受け手及び分野ごとの縦割りを乗り越えた「地域共生社会」の実現を目的とする。
- ・高齢者を中心に考えがちな地域包括ケアを深化させトータルケアできる仕組みを早期構築する必要がある。
- ・岐阜県下自治体は人口減少にある中で瑞穂市は人口増加傾向。特徴に合わせた本市に合う地域福祉計画策定が必要。
- ・生活保護前の生活困窮者への対応も検討が必要。
- ・団塊の世代が後期高齢者となる2025年を見据え計画管理が必要。

意見聴取・質疑応答 ①地域福祉計画策定の概要について

畦地委員：瑞穂市の状況・課題について

古くからの瑞穂市住民と転入住民のコミュニケーションがとれていない問題がある。人口が増えているからと漫然と構えていると他市町に比べ10年、20年遅れたところで福祉が崩壊する可能性もある。

協議事項②瑞穂市地域福祉計画アンケート調査について

委託業者説明

他の福祉計画動向について説明。全自治体で昨年度子育て支援ニーズ調査実施済み、今年度若しくは来年度に第8期介護保険事業計画策定のために日常生活圏ニーズ調査及び在宅介護実態調査実施予定。障がい者福祉計画についても来年度見直し予定のためそれぞれの個別計画調査と被る設問は省いている。

意見聴取・質疑応答 ②瑞穂市地域福祉計画アンケート調査について

竹本委員：アンケート調査全般について

アンケート調査についての考えを聞きたい、答えを裏付けるためのものか、それとも新たな課題を発見する意図があるのか。

事務局側回答：両面あると考えている。地区別、年代別、男女別などでクロス集計をかけて差を見つけないか。分析途中に予想しない答えがでる場合もある。ただ全数調査ではないので標本誤差は生じる。実態ニーズを把握したければ世帯や関係者に調査をする必要がある。アンケートは統計的ニーズ把握を一番の役割と考えている。

山本委員：アンケート調査全般について

アンケート調査数は適正か。また割り振り方について、校区人口の割合で割るのか、任意で割るのか考えを聞きたい。

事務局側回答：調査数が増えればサンプル数が増える、多ければ多いほど良いがコストの問題がある。割り振りについては少ない地区の割り当てを増やすなど方法はあ、どちらも事務局と協議し決定したい。

麓委員：アンケート調査対象者について

20代、30代のサンプルが少ないと答えが偏るのではないか。また調査票の設問も高齢者向けかと感じる。

事務局側回答：子育て世帯には昨年度子育て支援ニーズ調査を詳細に行っているはず。結果は活用する必要があるが個別設問提案があれば加えていきたい。

竹本委員：アンケート調査対象者について

福祉課題について市民に危機感がないことが大きな課題と感じている。またサポートする側の論点は多くあるが、本当に困っている方々（引きこもり、孤立、誰とも繋がっていない人々）のニーズが吸い上げにくい。そのあたりが分かればサポートしやすくなる。

事務局側回答：それらの課題をアンケート結果だけで吸い上げるつもりはない、ワークショップや懇談会など生の声を聞く場を作っていく必要もあると考えている。危機感をもってもらえる計画づくりも考えていかなければならないので意見は事務局に寄せて欲しい。

水谷委員：アンケート調査内容について

回答項目に行ったことがあるかないかだけでなく、“なぜ行かなくなったのか？”など加えてはどうか、個別の事案について知りたい。

事務局側回答：誘導設問もできるが、設計が複雑になり回答率が下がる可能性があるため最小限にとどめたい、事務局と検討する。

豊田（隆）委員：アンケート調査内容について

福祉情報入手について、前回調査を見ると分からないという回答が多い。分からないと回答した方への情報をアンケートに入れてはどうか。

事務局側回答：情報入手方法については過去の伝え方と今の伝え方で聞いている。

東海委員：アンケート調査方法について

前回調査は回収数873通、47%、この数値は低いと感じるがどうか。また今回の調査は紙ベースなのか、インターネットなど利用できる工夫があるのか。

事務局側回答：回収率47%は一般的には高い。調査は紙ベースで実施予定、インターネットは環境整備が必要であるため郵送料よりかかる可能性もあるためコスト面の問題もある。

玉城委員：アンケート調査内容について

調査票冒頭の①自助②互助・共助③公助についての分け方については適正か、調査票問12について、協働、協力、援助、担当など文言が複数ある。揃えた方が良い。用語解説全般について“用語解説によって初めて知った”という項目を追加した方が良い。調査票問23の成年後見制度についての回答欄、“4.成年後見人による金銭の横領防止などの不正防止の徹底”という回答が他と比べると異質と感じる。

事務局側回答： 自助・互助・共助・公助については4つに分ける。

文言は揃えるよう修正予定、用語解説についての回答は追加可能。また、成年後見人に任せることへの不安については表現を変更するかは事務局と検討する。

田宮委員： アンケート調査内容について

特定の設問のみルビがふってある。また、問36について「地域福祉」「福祉全般」について聞くよりも「困りごと」を聞いてはどうか。

委託業者： 自由意見の扱いについては現在の書き方でも3割ほど自由意見が寄せられると考えている。「困りごと」と変更するかは事務局と協議する。

竹本委員： アンケート調査内容及び前回調査について

前回比較を行うのならば類似設問・回答のずれを直した方がよい。また、前回調査分析は誰が行ったのか、数字の意味など把握しているか。

事務局側回答： 前回の調査分析は当時の委託業者が行った。

比較を前提にするのなら選択肢を変えてはいけない、変える場合は参考設問にしかない。

豊田（美）委員： 計画評価について

前回計画記載の課題について検証しているか。また、計画の評価進捗に関しては別途協議の機会があると考えてよいか。

事務局側回答： ヒアリングなど実施し、次回計画に盛り込んでいきたい。計画進捗評価に関しては別に協議の機会がある。

前回計画策定より何ができて、何ができていないのか評価を実施しなければならないと考えている。様々な検討結果から新たな課題を把握しなおす必要がある。

その他① 社協活動計画について

・来年度、地域福祉計画に倣い社協の実施計画を策定する。

その他② 事務連絡及び今後のスケジュールについて

次回開催予定はアンケート結果が出る今年度末若しくは来年度早々予定。

以上